

包括的な里親支援体制の在り方について

1 現状の課題・問題点

(1) 里親支援の不足

- ・里親委託ガイドラインに沿った訪問が確保できておらず、里親の求めに即応し、訪問することが厳しくなっている。
- ・委託児童の抱える問題が、複雑多様化しており、質の高い里親養育を維持していくため、丁寧できめ細かい支援や、研修の充実が必要となっている。

(2) 養育里親の不足

- ・里親希望者の地域間偏り、養子縁組のみ希望する里親増など、要保護児童のニーズに応じた里親の確保に向けた啓発が不足している。
- ・里親が確保できないという理由で施設措置となる事態が生じている。

2 解決されるべき最優先の課題

- (1) 安定した里親養育を継続できる里親支援体制の確保
- (2) 養育里親の確保
- (3) フォスタリング機関と里親支援専門相談員の役割分担

3 関係機関ヒアリング

(1) 対象

里親会、里親支援機関等に対し実施

(2) 主な意見

- ・札幌市の規模を考えると、複数のフォスタリング機関が必要。
- ・複数設置するならば、地域ごとに設置するのが現実的ではないか。
- ・入札により毎年フォスタリング機関が変わることは避けてほしい。
- ・フォスタリング機関と里親支援専門相談員の役割をしっかりと決めてほしい。
- ・各機関が連携を行うには、相互理解と児相の役割が重要になる。
- ・マッチングまで委託してしまうのであれば不安がある。

4 他都市訪問調査

(1) 訪問先

福岡市（児童相談所、フォスタリング機関（民間 NPO））

(2) 市の概況

	人口	児童人口	登録 里親数	委託 児童数	里親等 委託率	里親担当 職員数
福岡市	1,538,681 人	240,728 人	221 組	109 人	47.9%	7 人
札幌市	1,952,356 人	270,652 人	246 組	160 人	29.7%	3 人

※人口 平成 27 年国勢調査 ※里親統計 平成 31 年 3 月末（札幌調べ）

(3) 里親支援の特徴

児童相談所の里親支援体制の強化と併せ、乳幼児の養育里親に特化したフォスタリング業務を民間に委託し、直営と民営の2本立てで里親支援を実施している。

(4) 調査聞き取り内容から

- ・民間のフォスタリング機関の設置だけでは不十分であり、児相の体制強化も必要。
- ・支援が上手く機能するには時間がかかる。児相もフォスタリング機関とともに成長する関係が重要。
- ・研修や支援内容のすり合わせは特に行っていないが、定期的な報告会を行っている。
- ・フォスタリング機関が開拓した里親に対する訪問や相談等の支援は、フォスタリング機関が全般的に担っている。
- ・チーム養育には、里親がそのチームに所属しているという帰属意識が不可欠であり、里親とは密な連絡、情報共有が大切である。
- ・里親支援専門相談員は、施設入所児童の里親委託推進の役割を担うことが多い。

5 「アクションプラン 2019」の内容

里親制度を促進するため、登録希望者や里親に対し、リクルートから登録前後及び委託中の研修、里親養育者宅への訪問などの支援を包括的に行うため、民間の里親養育包括支援機関（フォスタリング機関）を複数設置する。

(1) 2019年度から4年間の事業費

117百万円（2019予算額 12百万含む）

(2) 目標

里親等委託率

2018年度末：29.7% ⇒ 2022年度末：34%

(3) 事業内容

2020年度：里親リクルート事業と研修事業を一体的業務として委託

2021年度：業務に一部訪問支援を加え、包括的支援事業として複数カ所へ委託

2022年度：包括的支援事業の業務内容を拡大し、複数カ所へ委託

6 今後の方向性について

民間委託を、児童相談所の負担軽減の手段とするのではなく、同一の支援者が、子どもと里親に対して、継続的に一貫して関わる伴走型の支援体制を実現することを目的として検討を行う。